

追跡

どうなった？一般質問のその後

過去に議員が行った一般質問が、その後、町政にどう活かされたのか、追跡調査をした。

原子力災害対策（EPZ）について

(平成23年6月定例会)

福島原発圏外自治体でもEPZ圏域拡大を早期に協議していれば、住民の避難は速やかにできたと思う。協議会で圏域拡大の要望をして頂けるか。

EPZとは、原子力防災対策を重点的に充実すべき地域の範囲です

質問

地域活性化について（交流人口の受入れについて）

(平成23年6月定例会)

町の経済発展には、交流人口を増やすことが必要不可欠。水戸北スマートICや県道城里那珂線的那珂川新橋（仮称）等のインフラ整備が大事であると思うが、どう考えるか。

EPZ圏域拡大について、機会があるごとに発言していく

福島第一原発事故の際、福島県内のEPZ外の自治体でも計画避難が行われたことから、早期の圏域拡大要望が多い。EPZ圏域拡大について、機会があるごとに発言していく。

答弁

各協議会を通じて整備促進の要望活動をしている

水戸北スマートIC・那珂川新橋とも、各協議会を通じて例年県に要望活動をしている。那珂川新橋については、平成20年代中頃の供用を目指すという回答を得ている。

現在の状況は、こうなっています

平成25年3月に城里町の一部区域がUPZ圏域の指定を受けた

現在は、EPZ（原発から半径8～10km圏）から、PAZ（予防的防護措置を準備する区域・半径約5km圏）とUPZ（緊急時防護措置を準備する区域・半径約30km圏）に範囲が拡大され、本町の一部区域については平成25年3月にUPZ圏域の指定を受けた。現在、県において避難計画が策定されており、本町は、栃木県及び群馬県へ避難する計画となっている。今後、避難先の具体的な市町村名が示される予定である。

水戸北SICのフルIC化が新規採択され、那珂西大橋は本年10月に供用開始

常磐道水戸北スマートICについては、国の新たな支援制度創設により、平成26年7月にフルインター化（上下線乗り降り可能）の新規採択が認められ、早期の整備促進が期待される。那珂川新橋については、「那珂西大橋（なかにしおおし）」として平成26年10月22日に供用開始となり、水戸市・那珂市・城里町の連携強化が期待される。

編集後記

「実りの秋」。

9月21日、町長選挙が行われ、稲作農家にとっては最も忙しい稲刈りの時期。まさに天候に左右され、猫の手も借りたくはない。私達も「若者」も城里的に力を尽くさなければならぬ。町民のみなさん、どうかご理解をいただき、引き続き、私たちの町を良くするための活動をお願いします。

- 議会広報委員会
- 委員長 南三郎
 - 副委員長 藤片余三郎
 - 委員 水岡 孝
 - 委員 岡水 誠
 - 委員 岡水 治
 - 委員 岡水 信一
 - 委員 岡水 治